

尾瀨

第24号

## 尾瀬の自然を守る会

年	月	日	主なできごと
6	6	5	S47 ・ 2 ・ 11
6	6	5	S47 12 10 ・ ・ 10 19
6	6	5	12 10 ・ ・ 1 19
6	6	5	10 10 3 2 10 / 9 高崎市 - 10 / 23 沼田市 - 11 / 13 京都市
6	6	5	9 9 9 30 26 4 ※ 10月中旬には一〇万名をこす 自然公園審議会・尾瀬道路計画廃止を決定。
6	6	5	8 8 28 21 「尾瀬の自然を守る会」発足。 車道建設反対運動街頭署名運動開始。（銀座・新宿）
6	6	5	8 ・ 29 31 1 環境庁スタート。 大石環境庁長官尾瀬視察（車道建設中止、又は、変更の意向を表明）。 環境庁・三県知事に、47年度工事の中止と46年度分の遊歩道化への協力を求める。
6	6	5	7 7 S46 ・ 6 ・ 20 岩清水つぶれる。 春・之一瀬・岩清水間車道建設工事始まる。
6	6	5	群馬県知事に公開質問状提出。 全国50ヶ所で街頭署名及びアピール。 車道建設反対署名簿を群馬県に提出（七万七千名） 沼田市にて反対デモ行進。 尾瀬現地集会及びゴミ持ち帰り運動。 「尾瀬の夕べ」を各地で開催し、車道工事反対アピール。 平野長靖氏急逝。
6	6	5	尾瀬の現状と将来を考える夕べ、平野長靖氏追悼 集会（朝日講堂） 群馬県尾瀬憲章制定。
6	6	5	※尾瀬沼の舟姿消す。（五月） 奥鬼怒スバーリー林道、女夫淵・八丁の湯間着工。 国立公園協会、尾瀬におけるゴミ持ち帰り運動を提唱。（各種団体参加）

6 S50	12	11	10	S49	9	6	3	3	3	3	S48	12	12
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
5	.	.	.	4	.	.	.	.	.	.	1	.	.
14	5	5	5	.	6	11	12	9	5	4	20	25	21
完了)	完了)	完了)	完了)	完了)	完了)	完了)	完了)	完了)	完了)	完了)	完了)	完了)	完了)
山小屋の風呂廃止問題が論義される。	大清水（一之瀬間の旧道復元工事開始（10月下旬完了））	福島県議会「尾瀬分水反対意見書」を採択。	日本自然保護協会「尾瀬一之瀬駐車場建設計画に対する反対意見書」を提出。	自然環境保全審議の自然公園部会小委員会が環境庁に対し「大清水以降のマイカー路線バスの運行を認めない」と答申。	「尾瀬地区の一之瀬駐車場建設計画の中止と、大清水（一之瀬間の片側二車線の舗装工事の中止並びに、その復元に関する要請書」を環境庁・群馬県に提出。	※環境庁「特定湖沼環境基準保全緊急対策調査」で尾瀬沼水質調査を開始。（以後毎年）	群馬県知事・県議会に「一之瀬駐車場反対署名簿」提出。	群馬県議会に請願書提出。	「尾瀬を守る連絡協議会」発足。（17団体）	群馬県議会に、「一之瀬駐車場建設中止の陳情。	「尾瀬自動車道廃止に伴う、自然復元への意見書」を群馬県へ提出。	「尾瀬周辺の道路問題に関する公開質問状」を三県知事及び環境庁長官へ14団体名で提出。	群馬県・「尾瀬車道は大きく迂回して作りた」と発表。

11	11	11	11	10	9	9	8	8	7	6	3	S56	11	8							
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	30	.	.							
28	21	13	17	6	29	20	21	14	23	23	23	23	1	26							
谷一新宿)	「奥鬼怒スープーバー林道についての質問書」を群馬県知事に提出。	第六回「尾瀬の夕べ」(高崎市労使会館)	「自然の中で考える」中村芳男氏・丹沢自然保護協会理事長	「奥鬼怒スープーバー林道建設中止集会・デモ行進(渋	県馬鹿の自然を守る会「奥鬼怒スープーバー林道反対」の陳情。「奥鬼怒地域における動植物の保護について」の陳情。	第三回「尾瀬自然保護指導員養成講座」	奥鬼怒スープーバー林道現地視察実施。	※日光の自然を守る会「奥鬼怒スープーバー林道反対」陳情。「奥鬼怒地域における動植物の保護について」の陳情。	群馬県水質審議会が尾瀬沼環境A規準設定の答申。(福島県も同様)	「奥鬼怒スープーバー林道を考える夕べ」(高崎労使会館)	日光の自然を守ると会と共同で、奥鬼怒スープーバー林道学術調査。	第四回「尾瀬自然保護指導員養成講座」	群馬県58国体事務局、山岳競技コース説明会。(新道建設計画発表)	群馬県知事に「奥鬼怒スープーバー林道建設計画を止めよ。」の意見書提出。	笠ヶ岳学術調査。	鰐岡環境庁長官・奥鬼怒スープーバー林道建設予定地視察。	群馬県に「笠ヶ岳新登山道建設反対」要請書提出。	「戸倉ダム建設計画早期着手請願」が県水源対策特別委で採択。	尾瀬の自然を守る会結成十周年記念写真展「尾瀬今昔」(高崎市高島屋)	第六回「尾瀬の夕べ」(高崎市労使会館)	「奥鬼怒スープーバー林道についての質問書」を群馬

（一月例会兼新年会報告）  
十日(日)於・東京農大一高  
(一)講演・日光の自然・植木  
方平氏 (二)今年度の事業計画  
(三)奥鬼怒スバーリ道 (四)新  
年会 参加・星・岡本・中島  
・高井・小井戸・飯塚・波戸  
場・下城・細山・三枝・志村  
・梅山・長谷川・丸山・吉岡  
・町田・水沼・景山・西島・  
松本・武藤・伊藤・金子・千  
賀・岸・阿部・日下部・松田  
・武・長沢・鈴木・椎名・八  
木・児玉・内海・河内  
二月例会報告  
六日 農大一高於  
伊藤正一氏(三侯山荘主人)  
を講師に「スイスの自然保護  
・美観」について講演してい  
ただいた。伊藤氏自ら山小屋  
を経営され、ヨーロッパ・北  
欧へ何回も出かけられ、自然  
についての造詣に深い。スイ  
スと日本の自然保護について  
は、法律は同じであるが対象  
が町や州や国や山などである。  
(日本では自然物の山などで  
ある。) 家や施設が、自然の  
なかでうまく調和されている。  
つくり方・その運営方法に日  
本との違いがあるためである。  
(設計段階から自然をそのま  
ま利用、つくつてからのチエ

## 第1回尾瀬自然教室開催のお知らせ

### 尾瀬の自然を守る会

子供たちに自然のしくみの素晴らしさを実感させ、また、たくさんの友とのふれあいの場を与えることを通して、日頃忘れがちな自然と共に生きることの大切さを考えさせたい。

ぜひ、多くの皆さんの参加を期待いたします。

**1 期　　日** 昭和57年8月4日(水)～8月7日(土) 三泊四日

**2 場所(宿舎)** 玉城屋旅館 027858-7211

**3 費　　用** 25,000円(沼田からの交通費・宿泊費・食費等を含む)

ただし小学生は23,000円

**4 対　　象** 身心ともに健全な小学生(5年生)～高校生

※参加者オリエンテーションに必ず参加できること。

**5 オリエンテーション** (東京) 昭和57年7月18日(日)午前10時より

東京農業大学第一高等学校生物教室

(群馬) 参加者に直接連絡致します。

[どちらかに必ず参加すること]

**6 指導講師** • 実践女子高校教諭 松村幸雄

• 駒場東邦中学・高校教諭 河内輝明

• 高崎市立小学校教諭 波戸場秀幸

• 八王子高校教諭 阿部秀利

• 群馬県キャンプ協会会長 小井戸哲夫

他7名

**7 集　　合** 上越線沼田駅前午前11時

**8 医療施設** 沼田中央病院

菊池医院(片品村鎌田)

**9 保　　險** 甲南保険センター

**10 募集人員** 100名

**11 参加申込方法** (1) 申込 申し込み書と身体検査票の写を1通、下記宛送付して下さい。折り返し

実施要項と振替用紙を配布します。

(2) 申込先 尾瀬の自然を守る会 自然教室事務局

〒156 東京都世田谷区桜3-33-1

東京農大第一高校 生物教室

(3) 申込締切 昭和57年6月30日(水)必着。ただし定員に達した場合は、早めに締切ことがあります。

**12 問い合わせ先** ※東京農業大学第一高等学校

生物教室(内海) 電話 03(425)4178

※駒場東邦高等学校

生物教室(河内) 電話 03(466)8221

## 尾瀬自然保護指揮員養成講座実施案 内

### 第6回（昭和57年度）

本年度も以下要領で「尾瀬自然保護指揮員養成講座」を開催致します。有能な指導者の育成と自然保護の推進力のため。この趣旨に御賛同の方は是非お申込み下さい。

目的です。

1. 主 集  
尾瀬の自然学舎会

2. 期 日  
1現地研修 昭和57年8月14日(土)～17日(火) 3泊4日

3. 日 程  
8月14日(土) 落田(9:40集合)→尾瀬沼畔(泊)

8月15日(日) 尾瀬沼→尾瀬ガ原(泊)

8月16日(月) 梓日尾瀬ガ原(泊)→指揮研修

8月17日(火) 尾瀬ガ原→落田(15:30反省会等・解散)

4. 実 内 構 成  
東京支店より出席者、尾瀬自然保護指揮員養成講座実施案(予定)

5. 備 用  
￥25,000-(支店・高級生徒￥23,000-)

(会場代・交通費・資料代・保險等々)

6. 収集 人 数  
20名

7. 施 計  
尾瀬の自然保護指揮員養成講座実施案(予定)

8. 施 計 方 法  
以下の項目をB5版の用紙、原稿用紙、便箋に書き下記申込用紙へ記入下さい。

9. 施 計 手 順  
月～令の午後3時～5時

10. 申込方法  
〒156 東京都世田谷区桜新町3-3-1

東京農業大学第一高等学級(内海) 03-425-4178

附属東京高等学級(内海) 03-466-8221

11. 申込手数料  
昭和57年6月末必着

東京農業大学第一高等学級学生物教室内 尾瀬自然保護指揮員養成講座実施案

12. 参加の許可  
書類審査上の、受講許可者に付直原本人範通牒致します。

13. 施 計 の 証 定  
現地研修・室内講座を受講した者に付直原本人範通牒致します。

14. 集 領  
内海庶務課 内海庶務課長 附註

昭和57年4月1日

尾瀬の自然学舎会

代表 好人

群馬県国体事務局「国体山岳競技の笠ヶ岳新登山道建設断念」と発表。	奥鬼怒スバーリン道反対 街頭署名（東京・栃木・群馬）	12	12	12
森林開発公団「奥鬼怒スバーリン道実施計画変更案」を群馬・栃木両県に提出、同意を求める。	群馬県林務部「奥鬼怒スバーリン道についての質問書」に解答。	1	1	S57
原環境庁長官に「奥鬼怒スバーリン道問題」で陳情。	群馬・栃木両県とも森林開発公団に「計画変更案に同意」と解答。	16	17	16
ツクもおこなわれる。日本では斜面は削り取って平にしてしまったが、斜面のまま利用して設計がおこなわれる。特に大事なのはつくつてからのチエックがおこなわれていない、など法律的な面、運営的な面などの違いが指摘された。この後、(一)十周年記念行事（東京）(二)尾瀬自然教室(三)第五回尾瀬自然保護指導員養成講座(四)4月以降例会のもち方について話し合った。	1バーリン道などの一連の自然保護関係の取材を積極的におこなっている一人である。県庁はあいかわらず東京の運動とと思っている。(2)自然保護の運動について話されたあと(3)具体的なこれから運動の展開として(A)県庁との接触（林務部長などの所へ出入りする）(B)新聞記者との継続的な活動ををおこなう(C)他の自然保護団体との横つながりを持つ	1 · · 16	1 · 1 25	1 · 1 12
六日 於農大一高	(現在、日本の自然保護運動が負けつづけている事から) ①研究スタッフについて（研究・情報のデーターを集める所がない。又、研究も自然についての研究だけでなく広い意味での研究を④これらを	朝日新聞社前橋局の篠崎弘氏に「群馬県からみた尾瀬の会について」という題で講演がおこなわれた。奥鬼怒ス	1 · 1 16	1 · 1 8
三月例会報告				

ふまえて経済・社会学としての自然保護の運動を考える必要があるという事などと有意義な指摘があつた。講演にふまえてこの後(1)昨年からの群馬尾瀬の自は植物の種類も多く、植物の宝庫は短い夏の間に次々と咲き代る自然のたくみなメカニズムに目を見はるばかりである。然し水ゴケを主体とする高層湿原も次第に貧弱になり、ヤマドリゼンマイ、ヤチヤナギ、ウラジロヨウラクツツジ、アシ等の陸地化を早める植物の占率が次第に高くなっている。以前は尾瀬ヶ原の土地の人は（小屋）ヤマドリゼンマイを食べてていたと言うことであるが却つてその方が陸地化を防ぐに役立つていたのではないかと思われる。特にヤチヤナギは年々非常な勢で殖えている。

自然にまかせるか、現状を維持させることが自然を守ることか、何時も義論の的になつてしまつ。然し、早晚自然は中間湿原に変りつつあることはやむを得ない。

尾瀬の自然を考える

県内の自然保護団体の動き(2)  
例会として11月～翌年の4月  
まで例会を持ちシーズン中は  
例会を持たないことが話し合  
われた。

入会のおすすめ

県内の自然保護団体の動き(2)  
例会として11月～翌年の4月まで例会を持ちソーナン中は例会を持たないことが話し合われた。

## を考える

現在の湿原は昔体験したような弾力ある水ゴケの層ではなくなった。自然の遷移と入山者による自然破壊とで、破壊の速度は二乗されてゆく。ヤチヤナギの根がドロをたくわえ、土を定着させ、中間湿原を経過して陸地化しようとしている。

こうした荒れて行くさまを見守るのが自然保護だらうと言ふのが私の疑問なのである。人がヒゲをそるようになれば尾瀬に於ける不要なヒゲはそつてやらなければ可愛相だ。

然し、自然のなりゆきを尊ばなければならぬ。美しい花は雑草に弱い、悲しいことではある。

嬉しいことに、尾瀬にはゴミがないと人から言われる。私もゴミ袋を持って歩いているが、四、五年前と比べると非常に少なくなつた。然し、一般の人人はゴミの山や、処理

**入会のおすすめ**  
「尾瀬の自然を守る会」は日本における自然保護運動の発祥地・原点である尾瀬において、自然保護を考え、学び、行動する「市民の会」であります。昭和四十六年八月尾瀬を通過する国際観光ルート沼田一田島線建設反対運動の際に発足し、その後幾多の困難を経ながら会員の努力によつて、運動は続けられています。

尾瀬を愛する皆さん、小さな力でも合せれば、一粒の雨滴が大河になるよう大きな力となります。どうぞ、この運動にご参加下さい。そして、日本の自然を守り、いつまでも豊かな人間生活を送ろうではありませんか。

**会の活動** ○会報「尾瀬」の発行 ○自然観察会 ○自然保护指導員養成講座 ○その他、自然保护に関する調査研究、講演会など。

**入会の方法** ○年会費（一月一十一月）二、〇〇〇円を会の会計へ振替でお納め下さい。会の主旨に賛同する方はどなたでも入会できます。

**会の会計** ■260 千葉市作草部八六四一五〇三（松田方）振替・東京6-138023

場を見たら腰をぬかすに違い  
ない、し尿の始末はもつとひ  
どい、下界と違つて汚物は氣  
温が低いため、何年経つても  
腐らず、そのままだからであ  
る。どの角度から見ても、こ  
れ以上のオーバーネースは無  
理である。

然るに、行政はあの手この  
手で尾瀬に便利な道をつける  
ことに懸命である。日本の尾  
瀬を日本の行政区は自ら破壊に  
迫車をかけてくる。もっと視  
野の高い所で判断していただき  
たいものである。

第一期生 松田美代子

松田

## 博 物 誌

**オオバコ**  
何年か前までは都内でもよ  
く見られた。花茎を引っこ抜  
き、相手との絡ませ引張り合  
う。中にはとても強く何回か  
の引張り合いにも耐えたもの  
があった。短く持つたり、太  
い茎を選んだりしたが、予想  
を裏切ることがよくあつた。  
草にしては強いのでレンゲの  
かわりに花輪をつくつたりし  
た。よく見ると縦になつた織

維が何本か見える。クローバ  
ーは、繊維を一本にして絡ま  
せたが、牛や馬がクローバー  
を食用にするのがへんな風に  
納得しえた。後年、踏み跡植  
物（路傍植物）ということを  
知り、合点がいった。近頃は  
都内ではみられなくなつた。  
人が歩かないからか、道が舗  
装されたからか。逆に尾瀬の  
道端でよく見られる。しかし、  
鳩待峠から山の鼻までは、尾

瀬でもオオバコがみられなく  
なるのかなあ。もうすぐシ  
ズンになる。どなたかオオバ  
コの植生図をつくつてみませ  
んか。

**オオバコ**

## 編集後記

早いもので、本会が発足し  
てもうすでに十年が過ぎてし  
まいました。この間、尾瀬も

大きく変りましたが、社会そ  
のものの尾瀬に対する、自然  
に対する考え方も大きく変わ  
たと思います。

発足当時は、車道から尾瀬  
を守れ、でした。反対をメイ  
ン・スローガンにした運動で  
したが、これからは、ただ反  
対するだけではなく、私たち  
の方から積極的に尾瀬の新し  
い利用の仕方、保護のあり方  
を提示してゆきたいのです。

入会申込書		年 月 日
1年分会費 2,000円を添えて申込みます。		
名 前(ふりかな)		
男 女		
現住所		
〒( )		
M S 年 月 日 生		
勤務先 電話( )		

事務局	尾瀬の自然を守る会会報
編集者	尾瀬 第二十四号
発行者	岸 好人
発行日	昭和五十七年四月
河内輝明	
三一三三一	
東京農大第一高等学 校生物教室内	
156	
東京都世田谷区桜	

